

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100505
法人名	社会福祉法人 恵光会
事業所名	グループホーム 光の丘
所在地	福岡県福岡市南区若久団地9-1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 23 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和4年1月17日	評価結果確定日	令和4年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原病院が母体の施設であり、他にも特別養護老人ホーム・グループホーム・老人保健施設などの施設があり連携を図っている
かかりつけ医が近隣にあり入所者それぞれに主治医が着いているため、急変時等迅速に対応できる
毎月イベントを行い、歌やゲームなど楽しく過ごしていただけるよう努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の一角にあり、幹線道路から一本入った場所にあるため、静かな中で落ち着いて生活できる環境である。母体の医療機関が近く、利用者の多くがかかりつけ医として利用し、主治医と事業所の連携が図りやすく、急変時にも迅速に対応できている。特に看取り時には、事業所と同じ建物内の特別養護老人施設の職員や看護小規模多機能施設の職員などからの協力も得ている。関連施設からのバックアップ体制が整っており、勤務する職員は生き生きと得意分野を活かしながら支援に専念し、より利用者寄り添った支援を実践できるよう事業所全体で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が住み慣れた環境で地域との交流も大切にしながら安心して過ごすことができるようにしたいとの思いを込めて理念を作り、フロアミーティングや朝礼・終礼で話し合ったり、復唱し共有している	開設当初のスタッフで、その人らしく暮らし続けられるようにとの思いを込めて理念を作っている。朝礼時に唱和することで共有し、住み慣れた環境に近い雰囲気作りに力を入れるなど実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の地域の廃品回収に資源ごみを出し参加している 今後は清掃活動などにも参加を検討	団地内の自治会に加入し、スタッフが地域の廃品回収に参加して近隣住民と挨拶を交わす間柄である。コロナ禍で地域行事は開催されていないが、今後は「Withコロナ」として地域に根差した活動ができるよう前向きに検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後運営推進会議や高齢者地域支援会議等で発信していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	しばらくコロナ禍で実施できず 12月13日に実施し現状報告を行った 今後は2か月に一度定期的に開催予定	対面での開催が難しい場合でも電話や書面で開催し、事業所の現状を把握してもらえるように努めている。感染状況が落ち着いた段階で併設施設と合同で対面方式で開催しているが、事業所の取り組み、課題について積極的な意見交換がされているかは確認できなかった。	感染対策に十分に配慮し、開催時間を短くするなどの工夫を取り入れながら、対面での開催機会が増えることで、活発な意見交換、情報収集の場となり、事業所の取り組みがよりしっかりと伝わる場となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者にはわからないことなど発生した際は都度相談している 運営推進会議の案内や議事録・ホームだよりも定期的に郵送している	利用者についての意見を求めたりすることは今のところ少ないが、介護支援専門員の変更届の手続き方法などを電話やメールで相談している。また、ホームだよりにて現状報告するなど関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の委員会や研修で学んでいる スタッフ同士で相談や声掛けをし利用者の思いを把握し、利用者が安全・安楽に過ごすことができるような環境を整え、身体拘束をしなくて良いような工夫をしている	身体拘束廃止委員を中心に内部研修に参加し、身体拘束についての理解を深めている。家族からの強い希望により、夜間の臥床時のみベッド柵を2点柵にしている利用者とは、同意書を取り交わし、不必要な拘束とならないように家族とも密に話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会に参加し、スタッフに報告することで職員一人一人が注意を払い防止に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名制度を利用中 全職員が制度について詳しいわけではない為、研修への参加を促したり、行政のパンフレットを活用し回覧している	併設事業所（特別養護老人ホーム、看護小規模多機能）と合同で内部研修を行い、学ぶ機会を設けてはいるが、成年後見制度や日常生活自立支援事業の理解が職員によってバラつきがある。	実際に成年後見制度を活用している利用者が複数いるため、事例を踏まえながら学ぶ機会は十分ある。これからも制度を活用する利用者が増えることが考えられるため、研修を更に重ねて、全職員が一定水準以上の理解度となるよう、今後の取り組みに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際家族や利用者の不安が少しでも軽減できるように説明を行うようにしている 後日いつでも質問に答えられる環境を整えている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、いつでも記入できるようにしている 利用者は日常のコミュニケーションの中で、家族は面会時等に聞き取りをしている	感染対策として事業所内への立ち入りが制限される前は訪問時に直接、顔を合わせながらゆっくりと話しをする機会を設けていた。意見には個別に回答し、検討した結果や経緯、今後の対応などを伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や終礼、ミーティングの際に話したり、日頃から各スタッフに個別で声掛けを行っている	ミーティングやユニット会議時に意見を聞く機会を設けてあり、意見や疑問に思ったことなど言いやすい環境にある。日々の業務の見直しを行い、業務の役割分担を細かく決めるなど、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加を促している 年に3回賞与時に自己評価を行っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等に制限なく採用している 工作や音楽など各々の特技を生かせる場を作っている 委員会に各々配置し役割を持ってもらっている 毎月行事を行い担当を決め分担し、職員も一緒に楽しんでもらい、生き生きと勤務できるように配慮している	30代から70代の男性1名、女性15名が勤務しており、年齢や性別など制限なく雇用している。職員の都合や希望に合わせた休みが取りやすい勤務体制であり、各自の能力や特技を活かしつつ、働きやすい職場環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修内容を回覧して全職員に伝達している朝礼や終礼・ミーティングの際にも人権教育・啓発活動に取り組んでいる 今後コロナの感染状況を見ながら外部研修への参加を促し、内部で発表等も検討	朝礼や終礼、ミーティング時にプライバシー保護について注意喚起したり、人権教育をテーマにした内部研修を実施したりしている。認知症介護実践者研修への参加を促すなど、啓発活動にも力を入れている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加 興味のある研修や認知症実践者研修などスキルアップできるようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加の際他事業所の職員とも交流できるよう研修参加を促している		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に本人と面談をしたり、施設や病院等の職員から聞き取りを行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始（契約）前に家族に施設見学をしていただき、その際聞き取りを行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要とされていることを挙げ、優先順位を決めケアプランに沿って支援するようにしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えを傾聴し、できることは一緒に行っている（洗濯物たたみなど） 創作活動で壁紙づくり等にも声掛けし一緒に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに近況報告をし、問題点など家族の意見も聞いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方との電話や手紙のやり取りを手伝ったり、ホームを訪ねてもらっている	感染拡大時には事業所内への立ち入りを制限していたため、手紙や電話で友人など馴染み深い関係の方との交流が途切れないよう努めている。外出が難しい場合はテレビで様々な場所、景色を映して、思い出話をするなどして、思い起こしてもらおうなどの工夫をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方は席を近くにしたり配慮している 会話中にトラブルにならないように必要に応じて仲介に入っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2名隣施設に移動あり 時々本人に会いに行ったり、家族と会う機会があれば声掛けを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活について本人や家族から聞き取りを行ったり、意思表示の困難な方は日常のケアの中でこまめに声掛けし把握に努めている	意向の訴えがある時にはゆっくり傾聴している。また伝えやすいように例をあげながら分かりやすく説明し意向を把握している。意向を伝えられない場合には表情や仕草から、意向を汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報、家族への聞き取り等で確認し、入所後の本人との会話の中で把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に充分声掛けして納得いただいた上で、本人の有する力等職員間の申し送り等で把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時家族の意見などを聞き取り、計画作成担当者を中心に各担当職員と共に介護計画を作成している	計画作成担当者、各担当職員、ケアマネジャー、看護師、管理者、家族、本人で話し合っって介護計画を作成している。モニタリングは全職員で意見やアイデアを出し合い、利用者の現状に合った介護計画となっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外で申し送りノートを活用し、職員間で情報共有を行い、各担当職員がモニタリングを実施し見直しをしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の記録（ケース記録など）に本人の訴え（ニーズ）を記録し職員間で所違法共有し都度支援の変更等行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で現在はできていない 今後地域の行事などへの参加を検討していく		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が系列の病院であることを伝えた承を頂いている かかりつけ医が近隣のため直ぐに相談することができ、必要に応じて検査や処置が受けられる 他科受診や他病院受診の際は家族対応してもらっている	利用者の多くは協力医療機関である、母体の医療機関をかかりつけ医としている。3カ月ごとに定期受診し、受診結果は訪問時や電話などで家族と情報共有している。受診時に家族の同行が難しい場合には職員が同行し、適切な医療を受けられるよう努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告・相談しあいながら適切な対応ができるようにしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	併設の病院（原病院）と連携を取り定期的に情報収集を行ったり、他病院の際は家族と連携を取り合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事例を交えて説明し、しっかり理解していただいた上で意向を伺い同意を得ている 系列病院の職員（医師・看護師等）や同施設の看多機・隣施設の特養の職員等と協力し合い、家族ともコミュニケーションをとりながら支援にとりくんでいる	入居時や重度化した時、終末期にその都度意向を確認し、具体的な事例をあげて分かりやすく説明し同意を取っている。協力医療機関の医師、看護師、併設他事業所の看護師や介護士でチームとなって終末期に向けた支援を行っている。現在までに1名の看取り経験がある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われる施設内研修に参加している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災などの災害訓練を年に2回実施し、消火器の使い方や避難訓練など行っている 日頃からもしもに備えて業務にあたり、職員同士で避難経路や避難場所について話している	消防避難訓練を年2回実施し、備蓄品も常備している。日頃より配線周囲に埃が溜まらないようにしたり、ベッドの配置位置を工夫したりして、各災害への備えとしている。協力医療機関が近隣のため、お互いに協力し合う体制が整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴支援の際必要以上に露出しないように気を付けている 声掛けは場面に応じて声の大きさなど気を付け、職員同士で注意しあっている	プライバシー保護については、内部研修で学んでいる。日頃より人生の先輩として敬い、言葉かけに注意している。トイレや入浴時には、掛物などを利用し、必要以上に肌の露出が無いよう配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	茶話会時に何が飲みたいか聞いたり、更衣の際服を選んでもらったり、自己決定できる機会を作るようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寂しさや不安を感じさせないようレクリエーションを楽しんでいただきながら、個々の自由時間を大切にいただき、声掛けするようにしている レクリエーションの内容をいくつか選択肢を出して利用者に選んでもらったりしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が施設内でカットなど受けられるように、訪問理美容を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は建物内の厨房で行っているため一緒にできないが、テーブル拭きやコップの洗浄などを一緒に行っている 季節行事の際デザートのコロケーションなどを一緒に楽しんでもらっている	食事内容についての意見や要望を聞き、給食委員会で発表したり、イベント時に一緒に調理や盛り付け、食事をしたりして、食事の場が楽しみなものになるよう支援している。日頃は食卓の片付けや厨房までワゴンを持っていくなどしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や固さなど入所者に合わせている 水分摂取量の少ない方にはお茶ゼリーを提供したり、容器や味を変えたりと工夫している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に声掛けし必要に応じて介助している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせた声掛け介助を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている トイレの扉に目印を付けたりと工夫している	タブレットを使用して、利用者それぞれの排泄パターンの管理を行っている。トイレに座る時間を定期的に作り、腹部マッサージをして、座薬を使わず、自然排便を促すなど、排泄の自立支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取を促し、食後は便意がなくとも便座に座る時間を設けている 毎日のテレビ体操や散歩などにも参加を促している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回が基本だが希望があれば対応している 入浴拒否のある方には無理強いせず時間や曜日を変えて対応している 利用者同士で声掛けあってもらったり、正式や更衣のみに切り替えて対応している	週2回午前中を基本とし、希望があれば午後も対応している。入浴中は利用者と話しをしながら支援し、拒否のある方には声かけの工夫や清拭や更衣のみで対応するなど個々に応じた方法で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは一緒にフロアでテレビを視聴している 居室内の温度にも配慮し、寒いときは湯たんぽなどを使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせ、2名でダブルチェックしながらセッティングしている 与薬の際も2名で声出ししダブルチェックをおこなっている 介護員は様子観察をし異常があれば看護師に報告相談するようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は決めていないが出来ることをしていただくようにしている 無理強いはいないように心掛けている 嗜好品に関してはコーヒーや紅茶などおやつ時に合わせて提供している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で遠方への外出はできていない 現在はベランダでの外気浴や3階テラスでの日光浴を行ったり、施設内を散歩している 今後は感染状況を見ながら外出支援も検討していく	感染対策の観点から現在は行事としての外出は控えている状況であるが、ベランダやテラスで外気浴をして気分転換を図っている。利用者本人や家族から外出する機会を増やして欲しいとの希望が増えてきており、対応を検討している。	ドライブなどで車中から外の景色を眺めたり、事業所の周辺を少人数で散歩したりするなど、人込みを避けながら、外の空気を感じられる方法を検討して、外出支援の内容がより充実していくことに期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持したい方にはお持ちいただいている 時々「お金は？」と言われるため一緒に保管しているところを確認し安心・納得頂いている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に加え電話や手紙での連絡は楽しみの一つになっている ご家族様からの電話を取り次いだりしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物音や照明・日光・臭い・温度が不快にならないよう声掛けをしている テレビの音量調整・遮光・こまめな清掃・換気にも気を付けている 壁に利用者と一緒に作成した季節の飾りなどを貼って和やかな雰囲気を出している	利用者それぞれが居心地よく過ごせるように個々の希望や特性で席の配置なども工夫している。共有空間は定期的に窓を開けて換気をし、太陽光が直接当たらないようにカーテンで調整もして、利用者が不快に感じる刺激にも配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度席を移動したり、入所者がどなたとでも仲良くできるように配慮している 月1回の行事は2ユニット合同で行い交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスなどは備え付けのものがあるが、自宅で使用していた時計や置物・写真・寝具などを持参して頂いたりしている 家具の配置などもできる範囲で工夫している	居室内には洗面台が設置されており、車いすでも使用しやすくなっている。自宅での生活に近づけるようにベッドの配置位置を工夫したり、自宅から持参したぬいぐるみや時計があったり、壁には写真が飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心・安全に移動できるように動線の確保に心掛けている 物の配置は極力変えないようにしている		